HUB-IBARAKI ART PROJECT 2022　開催のご案内

このたび、茨木市とアートを活用したまちづくり推進事業
「HUB-IBARAKI ART」実行委員会は、
4月より9月までの6か月間の期間で、
「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2022」を開催しております。

期間中は市内各所で複数のプログラムを実施して、まちなかで繰り広げる「アートプロジェクト」として、新たなアートの体験のかたちを提案します。
つきましては、本プロジェクトの周知にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※ 新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点より、プロジェクトの進行およびプログラムの開催に変更が生じる場合がございます。

本件に関するお問い合わせ、取材依頼：
茨木市市民文化部文化振興課
567-8505　大阪府茨木市駅前3丁目8-13　茨木市役所南館8階
Tel：072-620-1810
E-mail：bunkashinkou@city.ibaraki.lg.jp

開催概要

プロジェクト実施・開催期間｜2022年4月～9月19日（月）（約6か月間）

アーティスト｜武田 力（演出家・民俗芸能アーカイバー、1983年熊本生まれ）
発表作品｜《教科書カフェ》

テーマ｜
「教育」をめぐる思索を、アートのまなざしから拡張する
－「パブリック」と「プライベート」を自由に行き来するために

プロジェクト内容｜
作品の発表および制作プロセスの公開、トーク、市民交流の取り組みなど、
複数のプログラムを実施予定

チーフディレクター｜山中 俊広（インディペンデント・キュレーター）
ディレクター｜山本 正大（少年企画）
事務局｜茨木市文化振興課

主催｜茨木市、アートを活用したまちづくり推進事業「HUB-IBARAKI ART」
実行委員会

公式サイト｜https://www.hub-ibaraki-art.com/

今年度のプロジェクトの活動概要

武田力の作品《教科書カフェ》の概要

- 武田 力による、戦後以降の小学校の教科書を集め、一般に公開する場としての作品《教科書カフェ》を、プロジェクト期間中に茨木市内で公開する。プロセスの中でその形態が変化することも柔軟に受容しながら、半年間のプロジェクト活動を進める。
- 《教科書カフェ》は移動式形態の作品として制作し、7月から9月の間、茨木市内各所で毎月3日間、計9日間の公開を予定している。
- 《教科書カフェ》公開の場では、茨木のあらゆる世代の人々が参加・訪問して、実際の教科書を自由に閲覧できる環境と共に、教育を起点に広く社会などについて対話ができるような仕組みを構築する。公開時には各種イベントも同時に実施する。

プロジェクトの狙い

- 「パブリック」と「プライベート」の双方の価値観に強く作用する傾向のある「教育」という主題を起点とした、武田の作品とその制作プロセスから、新たな双方への気づきを創出する取り組みを実践する。
- 「教育」という主題を起点に、これまでにHUB-IBARAKIで出会うことの少なかった範囲の人々との交流・対話の機会を、プロジェクト期間中に定期的に創出する。
- プログラムの公開／非公開、その実現の可否に関わらず、プロジェクトとしての活動のプロセスを積極的に発信する。

2019年の「奈良・町家の芸術祭 はならぁと」で発表した《教科書カフェ》の様子［撮影：瀬尾憲司］

【《教科書カフェ》の過去の発表実績】

武田による《教科書カフェ》は、「奈良・町家の芸術祭 はならぁと 2019」の企画展「喜楽座の復活祭」（キュレーター：渡辺瑞帆）の一作品として初めて発表しました。その後、「さいたま国際芸術祭 2020」で参加作家として2度目の発表を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により、準備途中で発表は中止となりました。
本プロジェクトでは、武田が積み重ねてきた《教科書カフェ》のフォーマットを基にして、茨木のまちの性質に沿った活動プロセスを検討して、作品発表とそのためのプログラムを実施するものとします。

選定作家　**武田 力　TAKEDA Riki**

1983年熊本県生まれ。現在東京都在住。
立教大学で初等教育学を学び、幼稚園勤務を経て、演劇カンパニー・チェルフィッチュに俳優として参加。欧米を中心に活動するが、東日本大震災を機に演出家となる。

「警察からの指導」「たこ焼き」「小学校の教科書」など日常に近い物事を素材とし、観客とともに現代を思索する作品を展開する。また、演劇の手法を用いた過疎集落における民俗芸能の復活／継承も各地で手掛け、その経験を活かして「農」と「アート」の関係性の実践を通して研究する奥八女芸農プロジェクトに参画する。近年はフィリピンの国際演劇祭・Karnabalや、中国・上海の明当代美術館で滞在制作を行うなど、その活動を拡げている。

2016、17年度アーツコミッション・ヨコハマ「創造都市横浜における若手芸術家育成助成」に選定。2019年度に採択を受けた国際交流基金「アジア・フェローシップ」では、フィリピンとタイにおける民俗芸能とアートの関係性をリサーチした。九州大学芸術工学部非常勤講師。

小学校での教育は、多くの人がかつて経験したことかと思います。しかし、みなさんの教育体験を丁寧に紐解いていくと、それはひとり一人で随分と異なります。教育とは、人間が生きていく上での普遍的な営みであると同時に、これまでの歴史を背景とした環境や年代の価値観によって、つまりはその歴史を解釈する人間によって変化します。世代間や地域間などに生じている分断は、もしかしたら経験してきた教育観の違いなのかもしれません。

この《教科書カフェ》では、日本各地／各時代に誰か子どもが使っていた何百冊にも及ぶ教科書を自由に読み比べたり、このカフェを訪れた人たちが書き込んでいくノートから他世代や他地域の考え方の源泉を探ります。追憶に眠る「小学生のあなた」の視点から、それより過去の、そして現在の教育のあり方を感じ取ること。その思索は、日本が歴史や時代をどう解釈し、どういう国民を育てたいと意図してきたかをたどる旅でもあります。日本には国による教科書検定があり、それに合格しなければ小学校をはじめとした公的な教育機関で用いることはできないからです。

《教科書カフェ》では、そうした教科書を通じて教育を受けるのではなく、教科書を素材に自ら学び発見していくことで、他者の理解をはかります。その先に、近年よく耳にする「持続可能な未来」はあり得るのではないでしょうか？「わたしたち」を持続させるのは国ではなく、ひとり一人であるあなた自身なのです。

武田 力

《教科書カフェ》2019［撮影：瀬尾憲司］

《たこを焼く》2017［撮影：Samantha Lee ©CNN Philippines］

《わたしたちになれなかった、わたしへ》2015［撮影：和久井幸一］

今年度のプロジェクトのテーマ

「教育」をめぐる思索を、アートのまなざしから拡張する
―「パブリック」と「プライベート」を自由に行き来するために

『HUB-IBARAKI ART PROJECT 2022』は、作家公募で選出した東京在住の演出家・民俗芸能アーカイバーの武田 力（TAKEDA Riki, b.1983）と共に、4月から9月まで、6か月間のプロジェクト活動を茨木市内で展開します。
今年のプロジェクトでは、武田の作品・活動構想を基に、小学校の教科書を作品制作と活動のための素材の中心とし、私たちがこれまでに必ず、どこかで経験してきた「教育」を起点に広く物事を考える機会とします。市内の人々に呼び掛けて以前に使われていた過去の小学校の教科書を集めた後に、それらを一般に公開する「場」を作ることを目標に、この一連のプロセスとしての多くの活動を6か月の間に実践します。

武田 力 作品《教科書カフェ》

今年の武田の作品は、「場」が出来上がれば成立するというものではありません。すべての取り組みの中で、教育を入口に広く自由な対話ができる環境が備わらなければなりません。子どもの頃を中心に様々な教育の場を体験していると思いますが、そこで学んだものは世代や育った家庭・地域によって大きく異なるはずです。茨木のまちは、戦後20世紀は京阪神のベッドタウンとして、21世紀に入ると大学の新設と拡張によって、全国各地から人々が集まり、住み着く環境になっています。世代も出身地も異なる人々が多く行き交ってきたこの地で、教育とアートを起点に各々が思考と対話を重ねることは、他者の違いに直面し、いまの茨木のまちを客観的に捉える機会にもなるだろうと考えます。前提と見做されている物事を見つめ直し、そこからもっと先のことに心を巡らせることで、社会という大きな枠組みの中でいま私たちが何を考え、どう振る舞うべきかという迷いや悩みに向き合うきっかけにもなればと思っています。

これまでHUB-IBARAKIは、作家が茨木で発表する作品とその制作プロセスを介して、私たちの「プライベート」な環境にある「パブリック（公共）」な物事に気づき、茨木のまちと人々のいまとこれからを考える機会を創出することに努めてきました。今年の武田の作品とプロジェクト活動は、教育というパブリックの構造が典型的に現れるテーマを扱うことになり、「パブリック」と「プライベート」の境界をアートのアプローチでいかに自由に行き来できるものにしていくか、HUB-IBARAKIとして新たな試みに挑みます。

本年4月中の武田との市内活動の様子

メインプログラム

※ 新型コロナウイルス感染症の動向により、開催日時・内容が変更になる場合があります。最新情報は公式サイト・SNSをご確認ください。
※ 期間中、新たなプログラムを追加する予定にしています。詳細は随時公式サイト・SNSでお知らせします。
※ 参加費は全て無料（一部実費が必要なものもあります）。特別な記載のないものは、参加申込不要です。
※「《教科書カフェ》の公開」は雨天時中止、小雨決行とします。開催可否の情報はSNSをご確認ください。

◇　《教科書カフェ》発表と、その実現に向けた様々な取り組み

開催期間｜4月〜9月［コア期間：7月〜9月］

【プログラム／取り組みの項目】

A)「教科書」を集めるための活動

・公開イベントは5月〜7月に月1日程度開催、非公開の活動も含む

B)《教科書カフェ》の公開

・7月下旬、8月中旬、9月中旬に各3日、9日間茨木市内の複数の場所で開催予定

C)「教育」を起点に、広くものごとを考えるための対話、座談会、ワークショップ

・《教科書カフェ》公開日の他、期間中随時開催予定

制作協力｜西山広志（NO ARCHITECTS）、遠藤倫数（Neo Projects & Laboratory）、米子匡司
助成｜全国税理士共栄会

（* 一般に公開・参加できるプログラムは、開催日時・場所が決まり次第随時発表します。）

「教育」という主題を起点とした武田力の作品《教科書カフェ》が、プロジェクト期間中に茨木市内に立ち上がることを目指し、その実現のための大小さまざまな取り組みとそのプロセスを可視化することを目的とします。

「教育」は、パブリックとプライベート双方の価値観に大きな影響を与えている社会の構造であり、一人一人の価値観にも違いや強弱が必ずある概念でもあります。プロジェクト活動の中で、異なる価値観が一方的に排除されず、それぞれが保たれるように、伝えることの積み重ねを重視して取り組むプログラムです。

茨木市内での小学校の教科書の募集活動から、活動の協力へ向けた交渉、活動への周知と理解のための茨木の人々との対話とワークショップの場の創出などを経て、《教科書カフェ》の制作・公開へと至るプロセスの中で、公開／非公開のプログラムを随時実施します。

《教科書カフェ》の発表は、移動型の形態で茨木市内各所で展開します。最終的には、様々な時代・地域の教科書が一堂に集まり、世代や立場が異なる人々がその場に集い、対等にかつ建設的に「教育」を起点に私たちの身の回りのあらゆるものごとについての対話が立ち上がる環境を創出することを目指します。

2019年の「奈良・町家の芸術祭 はならぁと」で発表した《教科書カフェ》の様子［撮影：瀬尾憲司］

関連プログラム

※ 新型コロナウイルス感染症の動向により、開催日時・内容が変更になる場合があります。最新情報は公式サイト・SNSをご確認ください。
※ 期間中、新たなプログラムを追加する予定にしています。詳細は随時公式サイト・SNSでお知らせします。
※ 事前予約制のプログラムの参加申込方法は、後日公式サイト・SNSでお知らせします。

○　バトンタッチトーク　黒田健太×武田力【終了】

日時｜5月27日（金）16時〜20時
会場｜クリエイトセンター［茨木市市民総合センター］
　　1階　元喫茶店スペース
ゲスト｜黒田健太（ダンサー、HIAP2021選定作家）
参加無料

タイムスケジュール｜
16:00〜18:30　今年のプロジェクトの作品素材・資料の公開
18:30〜20:00　バトンタッチトーク

前半は、武田が本プロジェクトで制作・発表する作品素材や資料を公開し、来場者が武田との対話を楽しむものとし、後半は、昨年の発表作家黒田健太氏を迎えての武田との対談、今年のプロジェクトの活動計画・プログラムスケジュールの発表をおこないます。

今年のバトンタッチトークの様子

□ プロジェクト活動・プログラムスケジュール（予定）

公募期間

2022年1月12日(火)〜3月5日(金)

審査会 選定作家決定 3月15日(月)

全国より20名の応募が集まり、5名の審査員による選考の結果、武田力さんに決定。

プロジェクト実施期間／作品発表　4月〜9月19日（月）

☆ **メインプログラム　《教科書カフェ》発表と、その実現に向けた様々な取り組み**

A)「教科書」を集めるための活動（5月〜7月に月1日程度、公開イベントとして開催）
B) 《教科書カフェ》の公開（7月〜9月中旬に計9日間開催）
C) 「教育」を起点に、広くものごとを考えるための対話、座談会、ワークショップ（期間中随時）

☆ **関連プログラム（現在は1種類実施予定）**

バトンタッチトーク　黒田健太×武田力　5月27日（金）16:00-20:00　@クリエイトセンター

「HUB-IBARAKI ART PROJECT」について

「HUB-IBARAKI ART PROJECT（ハブ・イバラキ・アートプロジェクト）」は、「継続的なアート事業によるまちづくり」をテーマに、大阪府茨木市で実施するアートプロジェクトです。
茨木市に暮らす人々が、アート作品・アーティストとの交流を通して、アートの表現の豊かさ、美しさ、探求心に触れて、それぞれの日常へ還元していく機会を創出することを目指しています。毎年公募で1名のアーティストを選定し、作品だけで完結することなく、アーティスト自身も積極的にまちに関わり、まちの環境を継続的に育てていくことのできる作品・展示の発表をおこなっています。

本プロジェクトのルーツは2008年度から始まった「茨木市彫刻設置事業」までさかのぼり、ヤノベケンジ、名和晃平など茨木にゆかりのある現代美術家の作品が、茨木市内の野外に設置されました。2013年度から『HUB-IBARAKI ART COMPETITION』として現在の作家公募と長期間展示の形式にリニューアルし、2015年度からは作家を1名に絞って実施しています。さらに2016年度からは『HUB-IBARAKI ART PROJECT』に名称を変更して、アートによる茨木市のまちへの積極的な関わりを推奨するアートプロジェクト色を強めた企画を実践しています。

※ これまでの活動詳細は、公式サイトをご覧ください　https://hub-ibaraki-art.com/archives/

HUB-IBARAKI ART PROJECT 2021
作　家｜黒田 健太　Kenta Kuroda
作品名｜《今、ここで、立ち尽くすために》
会　場｜茨木市福祉文化会館［オークシアター］文化ホール

活動概要｜茨木市内でのリサーチ活動を経て、茨木の人々と協働した舞台作品の発表をメインに、作品の制作プロセスの公開、市民交流の取り組みやトークなど、会期中5つの関連企画を実施。

HUB-IBARAKI ART PROJECT 2020
作　家｜永井 寿郎　Toshiro Nagai
作品名｜《特別な場所－FIXATIF 2020》
会　場｜ソシオ-1茨木ビル2階ショーウィンドウ（作品発表）、市内7か所（ドローイングパフォーマンス）

活動概要｜茨木市内7か所での短時間のドローイングパフォーマンスと、その痕跡を捉える写真作品の発表をメインに、コロナ禍の市民交流の取り組みやトークなど、会期中5つの関連企画を実施。

HUB-IBARAKI ART PROJECT 2018-19
作　家｜冬木 遼太郎　Ryotaro Fuyuki
作品名｜《突然の風景》
会　場｜茨木市中央公園北グラウンド

活動概要｜車とクラクションの音で音楽を奏でる、1日限りの屋外での作品発表をメインに、制作のプロセス、周知活動、発表後の振り返りなど、6か月の会期中12の関連企画を実施。